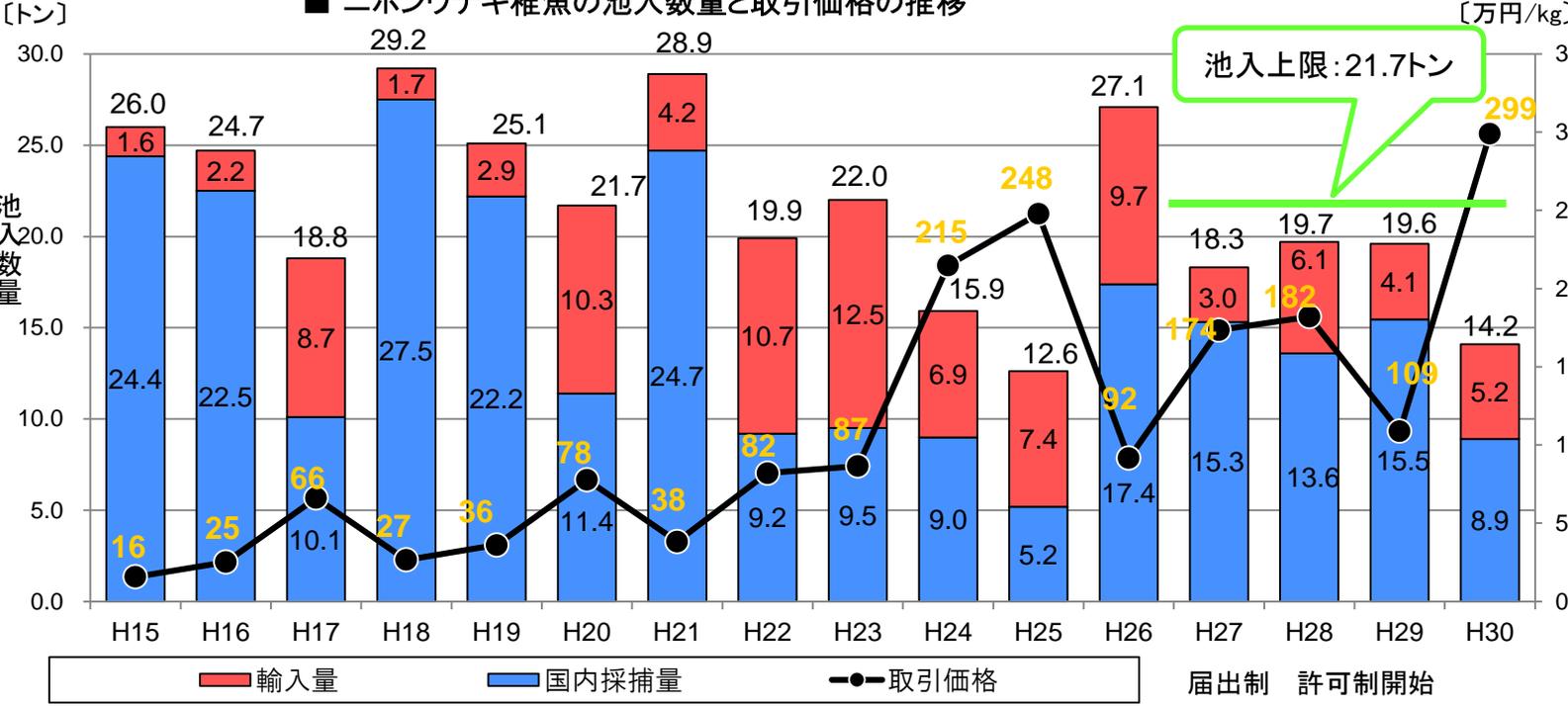


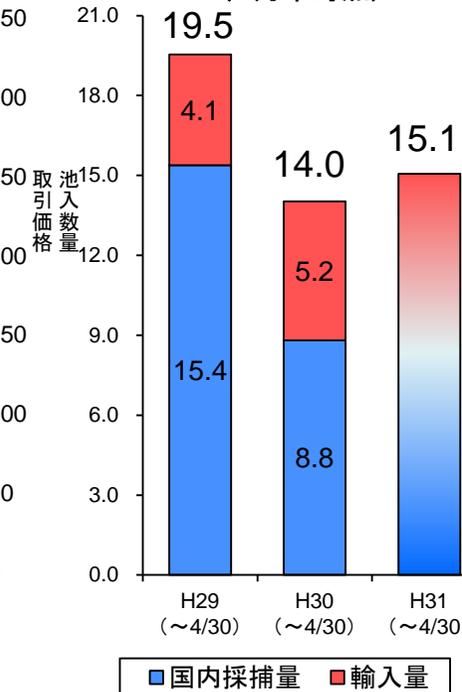
ニホンウナギ稚魚（シラスウナギ）の池入れ動向について

- ニホンウナギ稚魚(シラスウナギ)の国内採捕量には年変動があり、採捕量の不足を輸入で補っている。
- 平成30年漁期(平成29年11月～4月末日)は中国・台湾等を含めた東アジア全域で漁期が遅れたことから、漁期始めの採捕が低調であり、このため、シラスウナギの取引価格も高騰した模様。
- 本漁期(平成30年11月～4月末日頃まで)の池入数量は、4月末時点で15.1トンとなっているが、そのほとんどは輸入ものである。中国では一定量の採捕が見られたと聞いており、日本についてみれば極端な不漁となっている模様。

■ ニホンウナギ稚魚の池入数量と取引価格の推移



■ 池入数量の同時期比較 (4月末時点)



注1: 各年の池入数量は、前年11月～当該年5月までの合計値。平成15年～平成25年までの池入数量は業界調べ、平成26年～平成30年の池入数量は水産庁調べ。取引価格は業界調べ。
 注2: 輸入量は、貿易統計の「うなぎ(養魚用の稚魚)」を基に、輸入先国や価格から判別したニホンウナギ稚魚の輸入量。採捕量は池入数量から輸入量を差し引いて算出。
 注3: H30の輸入量は12月末までの貿易統計の数値。

